新宿プレイパーク協議会ウェブ講演会「子どもの遊びと育ちのメカニズム」
講師：NPO 法人日本冒険遊び場づくり協会代表　関戸博樹さん
感想質問意見

新宿子育てメッセの新宿プレイパーク協議会主催ウェブ講演会が６月４日に行われました。そこで講演会中に出た感想・意見・質問をご紹介します。子育て中の方も実質子育てほぼ終了の方も、子育て支援施設の方もたくさんの言葉を寄せてくださいました。

・誰かのニーズと自分のニーズの話、とても耳が痛い話です～そこがマッチするといいなーと思います。
・あまり考えすぎず、子供が楽しそうなのを見守れば良いのかと安心しました。
・園でも（遊びをやらせているつもりなのに）「これやったら遊んでいい？」という会話ありました。先生の話に同感です。職員に伝えます。
・こどもができないことに対して「できるでしょ」と期待しすぎてしまっていた自分に気付きました、、、、
・自分の人生を自身で手づくりできない…大人の姿勢によってこういう子多いような気がします。
・（新宿区ではないのですが）プレイパーク空白地帯でプレイパークを始めました。たくさん来ていただきうれしい悲鳴の一方で　これからが楽しみ！長い年月かけて育てていかなければです。
・わけのわからない行動にも意味があると、子どもが育っちゃてから知る。子どもは本当におもしろい。それに関われるのは親としての醍醐味。
・気質によって遊びも求めるものも違うけどいろんな気質の子が一緒にいることで生まれることが増える　そんな空間づくりが出来たらいいな。
・大人が環境になって、選択は子供にあることが大事って、改めて心にしみてます～
・内向性と、外向性。私は絶対内向性だと思いました。それでもプレパが好きです（大人ですが）
・「乳幼児が見て学ぶために未熟なまま生まれて来る」という話も目からウロコです。わらべうたあそびもコレに通じますね。
・子どもが楽しそうに遊んでいる時の声掛けも難しいと思いました。どんな言葉かけがいいのでしょうか？
・ついつい親側の気持ちを押し付けてしまいそうになりますが、気を付けないといけないなと改めて思いました。
・うちの内向性ボーイ、こんな天気にいい日に本読んで！！と今も言いたいところですが、エネルギー充電タイム・・・
・今工事現場では遊べないですよね。めちゃくちゃ楽しいのに。

・工事車両見には行きますけどね。
・工事現場が囲われていて見えないのが残念。昔は置いてある土管で遊んだり。危険だからしかたないです。
・第三者のケンカの介入、大事ですね。助かりますね。
・行為ではなく「心を受けとめる」のが大事ですね～。まさに、一人目子育て中に知りたかった。
・「僕の気持ちどうなっちゃうの？？」って言葉には、ハッとさせられます。自分も子育ての中でずいぶん息子の気持ちを汲まずにいたことが多いな、、
・一対一の子育てはしんどい。みんなでみんなの子どもを育てるのが楽だね。楽しいね。

Q.がまんさせるのではなくコップを満たしてあげる対応を具体的に教えて欲しい。

A.＜関戸さん＞背側迷走神経：赤ちゃんでも持っている。お腹空いた死んじゃう助けてと泣く。
まだ育っていない腹側迷走神経を育ててあげるためには、「大変！死んじゃう。困った」というネガティブでパニック状態の子どもに大人の落ち着いた口調と態度で（「そうだねえ」「大丈夫だよ」「よしよし」ハグするなど）チューニングしてあげることが大切。
「泣かないの！」「痛くない！」などと受け止めないことは逆効果。満たされないどころかコップに穴が開くこともある。

Q.子どもが何かに夢中になっているとき、どのような声掛けをすれば良いのでしょうか。声を掛けず、見守っている方が良いですか。

A.＜関戸さん＞基本的には手伝ってとか招き入れられたときは参加 OK。「見て！見て！」「聞いて！聞いて！」声掛けの基本姿勢は面白がってあげること。
介入してはいけないのは大人のニーズで関わりたいとき。たとえ褒めてあげたくても、子どもの夢中が断ち切られてしまう。
・面白い話ありがとうございました！日常の子育てにすぐいかせそうなことが多くて、自分の子育ても振り返るきっかけになりました。ありがとうございました！！
・ありがとうございました！とても良い機会でした。私もここで失礼しますが、また今後もよろしくお願いしま

関戸さんから
IPA-Japan　子どもの遊ぶ権利のための国際協会日本支部
https://www.ipajapan.org/playincrisis

講演会に引き続き、講師を交えて残れる参加者でテーマトーク「地域の遊び場を作る育てる」を行いました。

・初めてプレイパークを開催したら、宣伝の効果もあって５００人も来ました。うれしい反面、思ったようなプレイパークができませんでした。みんなお客さんで、何かやらせてくれる場所になってしまったんです。
・５００人！それは大変でしたね。でも、それだけニーズがあるってことですね。
・お客さん、わかります。
・次回からは、宣伝しないで口コミでやってみようと思いました。
・みんなで作っていく遊び場にしたいです。
・どうしても提供者とお客さんになりがちです。
・今、サービスを受けるのが当たり前のような風潮があるから、そこに行けば何かさせてもらえる、と思っちゃうんですね。
・「自由に遊んでいい」と言うとどうしていいかわからない。
・チラシに「段ボールを持ち寄ろう！」「ペットボトルを持ってきて！」と書いてそれで工夫して遊べるような仕掛けをするといいですよ。そして、それらは持ち帰ってもらう。スタッフが用意してしまうと「うちの子のがないんですけど」と言うようなことが起きる。自分で持ち寄り持ち帰ることでより参加している気持ちになります。
・その姿勢が、遊び場をみんなで作ることに繋がるんですね。
・「遊びに来てもらう」のではなく、「遊び場作りに参加してもらう」
・その意味でも、あんまり準備しすぎないのがいいです。スタッフの集合時間と開始時間にあまり差をつけない。基本的なものを出したら、後は来た人が並べる。それが場作りに参加してもらうことになります。
・「自分の遊び場」と言う意識ができますね。
・あと、公園だからいろんな人がいて、煙草を吸ったりお酒を飲んだり。公園では禁止されていないので…。
・「子どもの遊び場」だから、そこで酒タバコは良くないですね。プレイパークやるときは禁止にできないですか。
・また、火の経験ができないんです。
・公園のセレクトでも違ってきます。地元密着の小さい公園と車で来場するような大きい公園。それによって相談する相手も違ってきます。
・まず、どんな遊び場にしたいか、座談会をするのがいいですよ。何回か座談会をして、参加者に当事者意識を持ってもらう。自分の子どもがここでどんな遊びをしたいか？させたいか？を話していけば。
・サービスを受けて当然と考えていたけれど、少しずつ我がことと考えるようになって、どんな環境で子どもたちが育ってほしいか、それが地域にとってもいいことだと気づくよう

になる。
・そして、20 年（笑）！
・こちらは、この活動を引き継いでくれる後継者問題があるんですよ。
・あ、それは全然考えていませんでした。
・子育て中の親は忙しいし大変だけど、子どもが遊んでいる世代の方が運営する方がいいんですよ。
・ありがとうございました。お互い、頑張りましょう。関戸さん、貴重なアドバイスありがとうございました。